

はち りょう きょう

八稜鏡

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し^{イチ}の出土品を、月替わりでご紹介。

今回は、首里城跡から発掘された八稜鏡です。

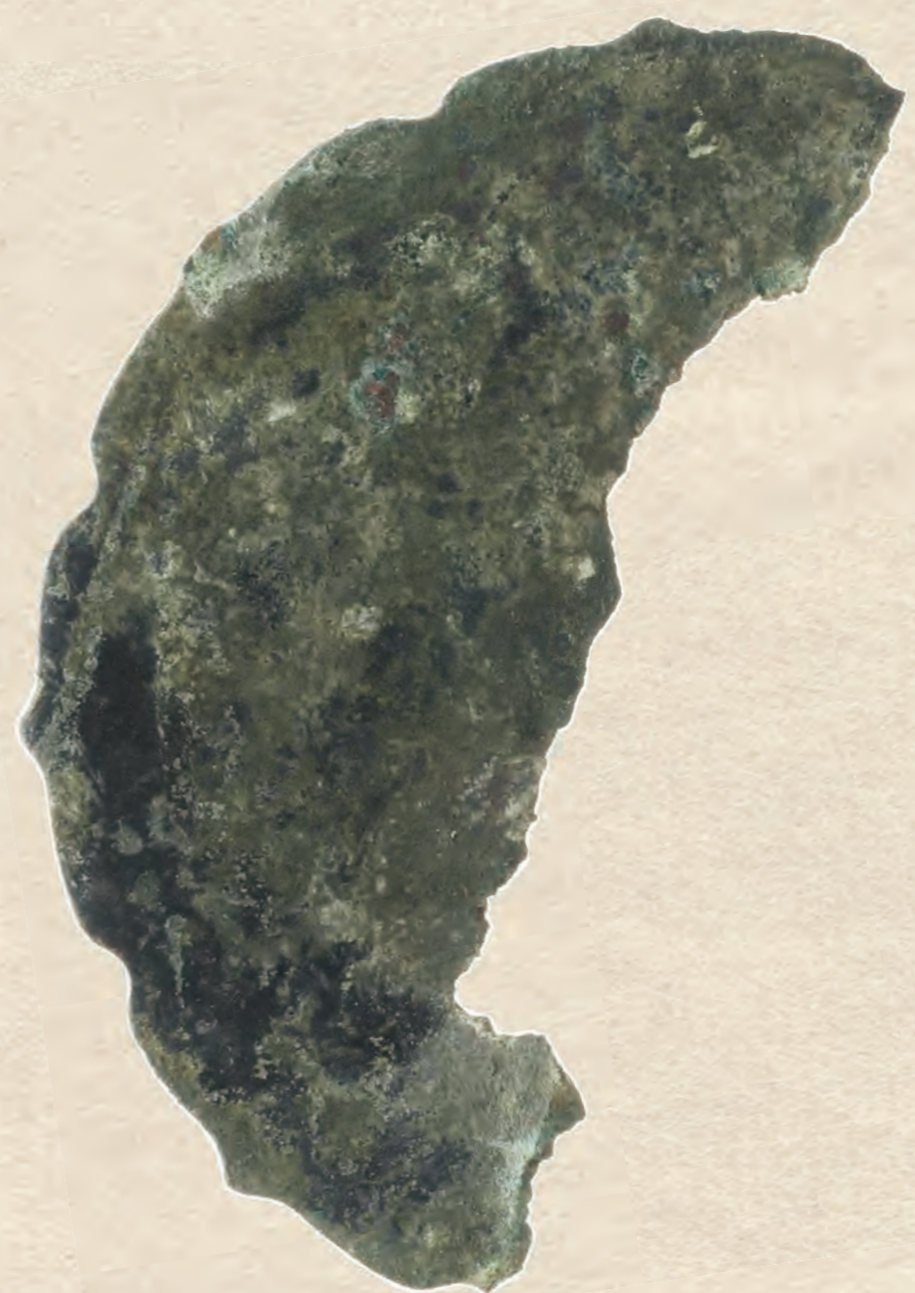
■ 出土地：首里城跡（那覇市）

この鏡は首里城跡城郭南側下地区の発掘調査により出土したものです。その輪郭から八稜鏡と呼ばれ、8世紀に中国・唐で考案され、9世紀から11世紀にかけて日本本土で盛行しました。

鏡の裏面には瑞花唐草文ずいかからくさもんが描かれています。日本本土では、神社ご しんたいの御神体まつとして祀られています。沖縄では当資料以外には確認されていないため、その用途については不明です。残念ながら鈕部（中心の紐を通すつまみ）を含む半部が欠損していますが、類例資料から鳳凰が描かれていたと考えられます。よく見ると、鳳凰の尾が確認できます。



（復元図）



（表面）

材質：青銅製

残存長：122.3mm